

会報

米子自衛防火協会事務局

米子市両三柳 5452 番地

鳥取県西部広域行政管理組合消防局予防課内

TEL0859-35-1954

印刷所 東京印刷株式会社

火は見てる
あなたが離れる
その時を

**春の全国
火災予防運動**
3月1日～3月7日
備えよう! 住宅用火災警報器

消防庁 全国消防長会 日本防火研究普及協会
URL: <http://www.shoubo-fukyu.or.jp>
宝くじの収益金は、身近な街づくりに役立っています。

春の火災予防運動

3月1日から3月7日まで

「火は見てる あなたが離れる その時を」

(全国統一防火標語)

【西部消防局重点目標】

- ① 住宅防火対策の徹底(住宅用火災警報器の設置推進)
- ② 特定防火対象物(不特定多数の人を収容する建物)の防火安全対策の徹底
- ③ 放火火災防止対策の推進

【西部消防局実施概要】

- ① 住宅防火対策の徹底
 - ・各種イベントや自治会等の集会などあらゆる機会を捉え、「住宅用火災警報器の設置推進」とそれに伴う「悪質訪問販売の防止」について住民の方々に詳しく説明。
 - ・住宅用火災機器等の展示
- ② 特定防火対象物の立入検査
- ③ 各種消防演習
- ④ 防火広報
 - ・保育園児による防火パレード
 - ・消防車両による防火広報(消防団合同防火パレード含む)
 - ・防災無線・広報紙による広報(放火防止対策)
- ⑤ 防火講話(防火研修)
 - ・奥様防災博士による防災教育(保育園児対象)
- ⑥ その他
 - ・各種訓練
 - ・防火指導



ご挨拶

米子自衛防火協会 会長

吉野正樹

平成20年の新春を迎え会員の皆様には、謹んでお慶びを申し上げます。

私儀、昨年6月の定期総会で会長に推挙選任され、身に余る光栄に存じますとともに、改めてその職務の重大さを感じております。当協会発展のために微力ながら鋭意努力していく考えでありますので、会員の皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、日本経済は回復基調にあるようですが、当地におきましては、いまだにその実感はなく、企業の経営は依然厳しい状態にあります。関係者におかれましては、引き続き経済政策にご尽力をいただき、豊かな社会の創造を期待しているところであります。

一方、昨年の災害を振り返ってみますと、局所的な豪雨、季節外れの猛暑等の異常気象が各地で発生し、これら自然災害に対する日ごろの備えも重要だということをご再認識させられた年でもあります。

また、能登半島、新潟県中越沖では死者が出る大規模な地震が発生いたしました。被害にあわれた方々には衷心よりお見舞い申し上げます。さらに、火災につきましては、宝塚市

のカラオケボックス火災、東京渋谷区の温泉くみ上げ施設での火災は、いずれも規模の小さい火災ながら多くの死傷者が発生するという、最近の建物火災の特徴が現れています。

昨年の西部消防全体の火災を見ても、件数は110件と一昨年(112件)に比べ、わずかに減少したのですが、事業所を初めとする建物火災(65件)が一昨年(86件)より大幅に減少しており、それに伴い損害額も激減し全体としては火災損害の少ない年でありました。

しかし、住宅火災による死者は減少傾向をみせておらず、住宅用火災警報器の設置がより一層強く叫ばれております。

当協会も地域社会と連携し防火・防災の推進に全力を挙げるとともに、各事業所の防火管理体制の整備充実を図るべく各種研修の実施、情報の提供を積極的に推し進めていく考えであります。

終わりに、今年1年が会員の皆様にとって実りある明るい年でありますことをお祈りしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

新年役員会を開催

（会務中間報告）

去る1月21日、皆生グランドホテル天水に於いて、竹内米子市議会議員、中田消防局長を来賓にお迎えし、米子自衛防火協会並びに米子市危険物保安協会の会長を始め、多数の役員の皆様に参加いただき、新年役員会が盛会に開催されました。

その会議の席上で報告された、平成19年度4月から12月までの会務中間報告の内容は次のとおりです。

1. 調査研究の部
先進地視察研修
日新製鋼(株)製鉄所
大和ミュージアム他(13名参加)
2. 研修の部
新規採用職員防災研修会
西部消防局(103名参加)
3. 防火思想普及の部
防災ビデオ、DVDの購入
防災ビデオ・フィルムの貸し出し
4. 防火協力の部
住宅用火災警報器の幹旋案内
5. 会議の部
定期総会、役員会
6. その他
甲種防火管理資格取得講習の図書幹旋
第1回 5月開催 80名参加
第2回 6月開催 97名参加
第3回 9月開催 92名参加
防火管理再講習の図書幹旋
8月開催 29名参加

新規採用職員防災研修会

平成19年6月19日、西部消防局に於いて当協会加入事業所の新規採用職員を対象とした防災研修会を開催いたしました。

当日は、防災教育の必要性についての講義と、消火器・消火栓の実技、煙体験を行いました。今年も参加者は、いつも増えています。今年も参加者が多く、不慣れながらも積極的に訓練に取り組んでおられました。

今回の研修会に参加した103名全員が、それぞれの職場でも進んで防災訓練に励んでいただけることと期待しております。



先進地視察研修

平成19年9月12日、13日の二日間、会員13名の参加をいただき視察研修を開催いたしました。

この度の視察場所は、広島県呉市にある日新製鋼株式会社呉製鉄所です。研修室で製鉄所の歴史や自然環境への取り組み等の企業概要を聞いた後、実際に現場での作業を見学するために作業服に着替えてヘルメットを着用し、バスに乗り込み広い構内を移動しました。

初めに原料が荷揚げされる主原料埠頭に到着。ここは20万トン級の船が接岸できるそうです。次にこの原料を銹



鉄に変える高炉（溶鉱炉）を見学しました。本物の溶鉱炉を見るのは初めてでしたので、溶けた鉄の迫力に圧倒されました。ほんの数秒高炉の蓋が開いただけで離れた場所からでもものすごい熱風を受けましたので、現場で作業されている方はかなり大変だと感じました。

高炉を出た後、バスで廻りながら各建物や資材の説明を聞き、最後にスラブヤードへ。ここは、溶鋼を鑄型に注入し水で冷やしながらかスラブを作り、それを圧延機で薄く延ばしてコイル状に巻き取るまでの一連の作業を行う場所でしたが、あいにく機械が止まっていて見学できませんでした。担当者の方に聞いたところ、1日1回作業時間を決めて動かしているそうで、工場内のすべての作業工程を見学するには半日あつても時間が足りないとのことでした。

本来なら、このスラブの行程が外部から見学に来た人には一番興味深いところですが、今回は見られなくてとても心残りです。また機会があれば是非行ってみたいと思います。

最後になりましたが、ここ数年、視察研修への参加人数が減少傾向です。事務局としても少しでも皆さんに興味を持っていただける企画をと考えてはおりますが、同じような場所になりがちです。

つきましては、会員の皆様のご意見をお聞かせください。行ってみたい、見学してみたい場所がありましたらお気軽にお申し出ください。お待ちしております。

平成20年度 講習会・試験情報

◆甲種防火管理資格取得新規講習

- 第1回 平成20年5月27日(火) ~ 28日(水)
- 第2回 平成20年6月5日(木) ~ 6日(金)
- 第3回 平成20年11月26日(水) ~ 27日(木)
- 第4回 平成21年3月18日(水) ~ 19日(木)

※受付等の詳細は、決まり次第ホームページに掲載します。

◆甲種防火管理再講習

平成20年8月1日(金)

※受付等の詳細は、決まり次第ホームページに掲載します。

◆消防設備士講習

平成20年10月下旬~ 11月上旬

◆消防設備士試験

平成20年8月3日(日)

試験種類 甲種・乙種

願書受付 平成20年6月3日(火)~ 6月17日(火)

◆危険物取扱者試験

第1回 平成20年6月15日(日)

試験種類 甲種・乙種・丙種

願書受付 平成20年4月11日(金)~ 4月25日(金)

第2回 平成20年10月5日(日)

試験種類 甲種・乙種・丙種

願書受付 平成20年8月4日(月)~ 8月18日(月)

第3回 平成21年2月1日(日)

試験種類 乙種

願書受付 平成20年11月21日(金)~ 12月5日(金)



防災ビデオ・DVD購入

当協会です新しく防災ビデオとDVDを購入しました。ご利用ください。

● 思わぬ火のもと 高齢社会・増え続けている電気火災(DVD)

● ちびまる子ちゃんの地震を考える

わが家の防災(VHS)

会費納入のお願い

本年度も残りわずかになりました。会費を未だ納めていただけていない事業所は、早急に納入していただきますようお願いいたします。

なお、ご不明な点がありましたら事務局までお問い合わせください。
電話(0859)3511954

平成19年中の西部消防局における災害の概況

1. 火災概況

平成19年中の火災件数は110件で、前年に比べ2件少なくなっています。

特に、建物火災は昨年より21件少ない65件で、これに伴い焼損面積、損害額とも大幅に減少しています。

死者は6人で、前年より1人多くなっています。そのうち、65歳以上の高齢者が半数(3人)であったことから、今後は住宅用防災機器の普及など、従来にも増して高齢化社会に備えた防火対策が急務であると考えます。

出火原因につきましては、昨年に引き続き「放火・放火の疑い」が第1位を占めています。これは枯草への放火火災が多発したことによるもので、このことから、今後各家庭はもちろんのこと地域全体で放火に対する警戒をより強めていくことが重要な課題となっています。

火災の原因

平成19年		平成18年	
第1位	放火・放火疑い 24件	第1位	放火・放火疑い 12件
第2位	こんろ 11件	第2位	こんろ 12件
第3位	たき火 9件	第3位	ストーブ 6件
第4位	火入れ 8件	第4位	火あそび 5件
第5位	たばこ 5件	第5位	たき火 5件

火災の状況

	平成19年	平成18年
火災件数(件)	110	112
建物火災	65	86
林野火災	5	1
車両火災	9	11
その他火災	31	14
損害額(千円)	92,913	288,024
死者(人)	6	5

2. 救急概況

平成19年中の救急出場件数は8,800件で、前年に比べ325件少なくなっています。救急搬送人員も同様に187人減の8,286人で、平成13年以来2回目の減少となりました。

しかしながら、搬送人員に占める高齢者の割合は3ポイント増加しており、高齢化率が進む西部圏域では、この傾向は今後も続くものと推測されます。

事故種別の出場件数では、急病、一般負傷が大きく、その他の種別は微減微増でした。

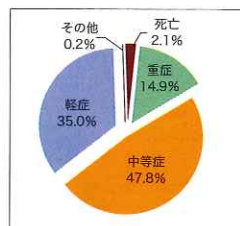
心肺停止傷病者の内7名の方が社会復帰を果たしています。今後も「救える命」を確実に救うため、住民・救急・医療との一層の連携を図る必要があります。

過去10年間の救急推移



傷病程度別搬送状況

程度	死亡	重症	中等症
搬送人員	178	1,233	3,961
	軽症	その他	合計
	2,899	15	8,286

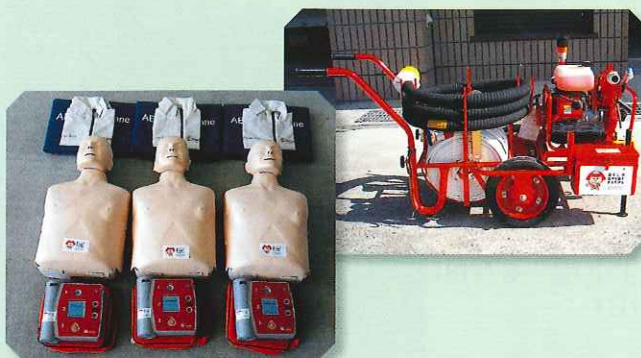


年齢別搬送状況

搬送人員	新生児	乳幼児	少年
	36	351	313
	成人	老人	合計
	3,001	4,585	8,286



これは平成19年度の「宝くじ助成事業」により財団法人日本消防協会から寄贈いただきました。



西部消防局では「安全で災害に強い地域」を作るため、軽可搬消防ポンプによる初期消火訓練、訓練人形を活用した応急手当普及啓発活動を積極的に推進しています。

安全で災害に強い地域作り